

# 森林再生への道

森林再生の実践

日時：平成22年11月20日（土） 10:00～12:00

講師：鶴岡 朗（NGO 持続可能な豊かな社会をつくるネットワーク）

## 概況



森林再生を実践するなど何らかの活動をするためには、“ヒト・モノ・カネ”が必要となる。「環境 NGO 持続可能な豊かな社会をつくるネットワーク」(以下、持続ネット)の場合、会の趣旨に賛同してプログラムに参加してサポートする「参加会員」(70名)、プログラムをボランティアスタッフとしてサポートする「協力会員」(20名)、プログラムを資金面でサポートする「賛助会員」の存在により、会の活動を成立させている。

森づくり(森林再生事業)の場合、“どんな森にするのか”という目標・目的の明確化と、土地所有者等に対する交渉・報告(間伐・除伐した材の利用に関する取り決め、地域への説明会、トイレや食事場所・駐車などに関する取り決め等)が重要となる。また、次回以降の活動を展開するためにも、活動後には成果物をきちんと作成し評価することが重要であり、持続ネットでは必ず写真や動画などの記録とともに、気象データも記録している。また、これらの記録は、各関係者への礼状作成にも使うことができる。

安全管理は最重要課題であるが持続ネットの場合、事業ごとに傷害保険(行事参加者傷害保険)に必ず加入する。森の活動全般に関して、NPO 法人森づくりフォーラムに団体加盟して年間契約できる保険がある。さらに当日の体調を自分自身できちんと把握できるよう、「脳力・心力・体力」それぞれについて100%表示をさせたり、よく眠れたか、朝食を食べてきたかどうかなどのチェックを各自にさせたりしている。食事については、食品会社からカレーの提供を受け、参加者に米1合持参してきてもらい、みんなでカレーをつくって食べることが多いが、大変好評である。

また、トイレについては、バイオトイレをつくることが多い。しかし半年以上同じ森で

活動する場合は工事現場などでつかうトイレをリース契約するのが得策である。

・ロールプレイング

受講生が「市民」、「土地所有者」、「地域」(地域の総代)、「行政」、「企業」、「団体」、「報道」、「学校」、「参加者」、「有識者」の役に別れ、森林再生活動を実施するという前提でのロールプレイングを実施し、活動実施に際しての課題の洗い出しを行った。